科目名			担当教員	
精神保健福祉援助実習指導Ａ			小野　芳秀　ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CX4188	1	1	SR（講義）	３年以上
履修登録条件		「精保演習Ａ」をすでに履修登録済みで、「精保演習Ｂ」と「精保実習Ａ」を同時に履修登録する方のみが履修登録できます。 ※その他、履修の前提科目は、『学習の手引き』３章を参照ください。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※社会福祉学科で精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者に対して開設されている科目です。

※「精保実習指導Ａ」のスクーリングを欠席した場合、「精保実習Ａ」は受講できなくなります。

※実習受講者のスクーリングは、「精保演習 B」との組み合わせによる同時受講が必須です。

※今後の見直しなどにより、ここに記載の内容を変更する場合があります。詳しくは『With』などでご案内します。

※実習免除者は受講不要です。

※本科目の開講形態は、本冊子「精保演習 B」「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」を参照ください。

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉士として必要な具体的かつ実践的な専門技術などの習得を図ることを目的とします。また、併せて精神保健福祉援助実習の意義について理解をするとともに、地域精神保健福祉活動における実習分野（利用者理解を含む）と精神科医療機関に関する基本的な知識を理解することを目的とします。

福祉施設実習に向け、これまでの学びを体系的に整理し、自分の課題を明確にできるよう、事前学習にしっかりと取り組んでからスクーリングに臨んでください。

■到達目標

①精保実習Ａ受講前

１）実習の意義が説明できる。
２）個人の実習課題を明確にして説明できる。
３）実習計画（案）が立てられる。
４）精神保健福祉士の倫理綱領が理解でき、実践していくことができる。
５）考察の仕方を理解し、客観的な記録が書ける。

②精保実習Ａ受講後

１）地域において精神障害者の置かれている現状の理解、精神保健医療福祉の現状の理解を実習の振り返りの中で確認し説明することができる。
２）地域における各種の機関の役割が説明できる。
３）様々な制度と実際の運用についての説明できる。
４）自己の特性についての自己覚知ができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目の評価基準

演習内容（50%）+ 実習事後課題レポート（15%）＋実習記録（15%）＋実習評価（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保実習指導 B」「精保実習 A・B」と共通）

１）精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー8 精神保健福祉援助実習指導・現場実習〈第 6 版〉』へるす出版、2017 年（改訂新版でも可）

２）『精神保健福祉援助実習 A 課題ノート』

３）その他、補助教材（必要に応じ適宜配付）

※ ２）３）は「精保実習指導A」受講対象者ならびに「精保演習 B」（実習免除者）受講対象者に別途配付。

（最近の教科書変更時期）2017 年 4 月

（スクーリング時の教科書）資料配付・提示のほかに、上記教科書を使用する場合があります。

【参考図書】

１）一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新 精神保健福祉士養成講座 8　ソーシャルワーク実習指導　ソーシャルワーク実習［精神専門］）』中央法規出版、2021 年

２）福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 11　精神保健福祉援助実習〈第 2 版〉』弘文堂、2018 年

スクーリング

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保演習Ｂ－2＋実習指導Ａ－2」（実習Ａ事後指導）スクーリング

※最新の受講条件は、学生専用の『ポータルサイト』または申込時の『With』でご確認ください。

①受講 1 カ月前の指定期日までに達成

・「精神保健福祉援助実習指導Ａ」1 単位め（レポート課題 3）の提出

②受講当日に提出

・「精神保健福祉援助実習Ａ」課題ノート

■スクーリングで学んでほしいこと

①精保実習Ａ受講前

福祉施設実習に向け、これまでの学びを体系的に整理し、自身の対人援助者としての適性や今後取り組むべき課題を明確にできるよう、事前学習にしっかりと取り組んできてほしい。

②精保実習Ａ受講後

福祉施設実習を踏まえ、自身の行動特性への気づき、地域における障害者の理解・精神保健福祉士の役割について整理、確認してほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	精神保健福祉援助実習の意義ならびに精神保健福祉士としての職業倫理、法的責務、守秘義務などのプライバシー保護、利用者理解（障害・疾病の理解）
2	実習の準備①	「実習計画（案）」の作成と実習先機関の基本的理解ならびに必要とされる専門的知識と技術に関する理解
3	実習の準備②	実習記録の書き方ならびに考察、実習生としての態度形成について
4	実習課題の整理①	地域における精神障害者の生活の実情について実習体験を踏まえ整理
5	実習課題の整理②	地域における各種関係機関の役割
6	実習課題の整理③	諸制度・サービスの実際の運用について
7	実習課題の整理④	実習体験を踏まえた自己覚知、実習記録・評価表による振返り指導
8	実習課題の整理⑤	医療機関実習に向けた目標ならびに課題の整理

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、必要に応じて板書やＩＣＴの活用、資料配付などを行う。

■スクーリング　評価基準

演習内容（50%）＋実習事後課題レポート（15%）＋実習記録（15%）＋実習評価（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

【実習受講者】

次項「■在宅学習 15 のポイント」から予習しておくこと（前項「■講義内容」の各テーマに対応する「■在宅学習 15 のポイント」は次表を参照）。

テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）	テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）
1 ）	1・2・3・4・5・6・7・9	5 ）	14
2 ）	15	6 ）	12・14
3 ）	13	7 ）	8
4 ）	12	8 ）	－

※本冊子「精保演習Ｂ」■スクーリング事前学習参照。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

※本冊子「精保演習Ｂ」■スクーリング事後学習参照。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	精神保健福祉援助実習の意義と特徴 (基礎編　第１章 Ⅰ～Ⅳ)	実習の意義とねらいについて理解する。実習の意義や養成校としての大学と実習機関との役割分担について理解する。 キーワード：職業倫理、守秘義務、地域生活支援、権利擁護、チームアプローチ、アウトリーチ、ネットワーキング	教科書の“「精神保健福祉援助実習導」のねらいと含まれるべき事項”を読み「実習指導のねらい」について理解する。
2	実習の学習内容と基本的な流れ (基礎編　第２章 Ⅰ・Ⅱ)	実習における学習内容と実習の基本的な流れについて理解する。 キーワード：生活の質（QOL）、人と状況の全体性、生活者支援の視点	実習現場において学ぶ、クライエント、施設・機関、生活問題、支援の過程についての知識と経験について理解する。
3	実習の準備と事前学習 (基礎編　第３章 Ⅰ・Ⅱ)	実習の事前準備としてどのようなことが求められるのかを理解する。 キーワード：地域移行支援、措置入院、医療保護入院、チーム医療	「精保実習Ａ」の事前準備については本学独自に『精神保健福祉援助実習 Ａ 課題ノート』の所定の範囲の学習、ならびに「実習計画（案）」の作成などが課せられている。一般的な実習の事前準備と流れについては教科書から理解しておく。
4	事前学習の意義と目的・内容・方法 (基礎編　第３章 Ⅲ～Ⅴ)	実習事前学習の意義と目的・内容・方法について理解する。 キーワード：生活のしづらさ、社会的入院、言語化と応答性、父性的保護主義（パターナリズム）、リカバリー、クライエントの自己決定の原理、自己覚知、倫理綱領、地域移行支援、地域定着支援、守秘義務	各キーワードについて説明できるようにする。実習において求められるスキル（言語化、記録、コミュニケーション、実習生としての立場の理解・自覚）について認識を深める。教科書の「日本精神保健福祉士協会倫理綱領（称）」についても内容を理解する。
5	事前準備・リスクマネジメント (基礎編　第４章)	実習におけるリスクマネジメントについて理解する。 キーワード：実習プログラム・バウンダリー	教科書のＱ＆Ａから実習Ａにおけるリスクについてイメージする。
6	実習の具体的展開・実習指導者・実習担当教員の役割 (基礎編　第５章 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	実習の具体的展開について理解する。実習指導者・実習担当教員の役割について理解する。 キーワード：事前オリエンテーション、陪席、実習スーパービジョン、実習指導者：実習プログラムの作成、実習担当教員：実習指導者との協議	教科書の「2 配属実習における具体的行動」、実習における実習指導者および実習担当教員の役割を理解する。

7	実習の留意事項・学習過程 (基礎編　第５章Ⅳ～Ⅴ)	実習の留意事項・学習過程について理解する。 キーワード：社会常識とコミュニケーション、自己点検、四者関係	教科書の「Ａ　実習生が守るべき心」、「Ｂ　実習指導者が留意すべき事項」、「Ｃ　実習担当教員が留意すべき事項」、「Ａ　実習生の準備状況」について理解する。
8	巡回指導教員によるスーパービジョン、実習記録の指導、実習スーパービジョン (基礎編　第５章Ⅵ～Ⅷ)	巡回指導教員によるスーパービジョン、実習記録の指導、実習スーパービジョンについて理解する。 キーワード：巡回指導、自己覚知、スーパービジョン	本学での実習では、福祉施設実習、医療機関実習合わせて実習期間中に2～5回の巡回指導と0～3 回の帰校指導が実施される。教科書を読み、実習中に係る指導者の指導がどのような内容・目的で行われるのか理解する。
9	巡回指導教員によるスーパービジョン、実習記録の指導、実習スーパービジョン (基礎編　第５章Ⅵ～Ⅷ)	巡回指導教員によるスーパービジョン、実習記録の指導、実習スーパービジョンについて理解する。 キーワード：巡回指導、自己覚知、スーパービジョン	教科書の「実習事後学習の具体的な展開」について理解する。
10	実習評価の意味と方法 (基礎編　第６章Ⅱ～Ⅳ)	実習評価の意義と目的および内容と方法について理解する。 キーワード：評価	教科書の評価内容について理解する。
11	実習評価ならびに実習の各過程における評価について (基礎編　第７章Ⅰ～Ⅴ)	実習評価ならびに実習の各過程における評価について理解する。 キーワード：事前評価	教科書の実習に係る各立場における評価について理解する。本学で実際に使用している『評価表』と内容は異なるが、参考として教科書の評価表などから何について評価されるのか内容を確認しておくこと。
12	実習施設・機関の目的・機能と役割 (実践編　第８章Ⅰ)	実習施設・機関の目的・機能と役割について理解する。 キーワード：就労移行支援事業所、就労継続支援事業所（Ａ型・Ｂ型）	教科書のうち、特に「精神保健福祉援助実習Ａ」の実習機関である福祉施設（障害福祉サービス事業所など）についてはしっかりおさえておくこと。
13	主な実習経験と課題① (実践編　第９章Ⅲ)	クライエントやその関係者（家族・親族・友人など）との基本的コミュニケーション、ニーズ把握・支援計画の作成、支援関係の形成、権利擁護について理解する。 キーワード：リカバリー、ストレングス概念、アセスメント、プランニング、利用者主体、対等性、透明性の確保、インフォームドコンセント、インフォームドチョイス、傾聴、リフレーミング技法、社会的孤立	教科書の内容をしっかりおさえる。教科書の事例から具体的なアセスメントとプランニングの展開についてイメージできるようにしておくこと。

14	主な実習経験と課題② (実践編　第９章Ⅳ～Ⅶ)	精神医療福祉における多職種連携とチームアプローチ、精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務、アウトリーチと地域ネットワークについて理解する。 キーワード：多職種連携、チームアプローチ、カンファレンス、ケア会議、連携調整機能、職業倫理、倫理綱領、秘密保持、ケアマネジメント、包括型地域生活支援（ACT）、権利擁護者、秘匿権、チームケア、ピアサポーター、アウトリーチ（訪問）、社会資源	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から当事者参加の地域福祉計画作成について整理する。各キーワードについてはひと通り説明できるようにしておくこと。
15	実習指導計画モデル (実践編　第 10 章)		教科書の内容をしっかりおさえる。なお本学では保健所における実習は当面実施されない。実習プログラム例から実習の展開をイメージできるようにしておく、また巻末の［資料 1］精神保健福祉法についてもひと通り目を通しておくこと。実習の事前課題である「実習計画（案）」の作成については、他の文献も各自で探し参考にすること。

■レポート課題

課題１	**「精保実習指導Ａ－1」スクーリング受講前の課題** ①「精保実習Ａ計画（案）」を Word データで作成し、精保実習係（psw@tfu.ac.jp）宛にメール送信してください（提出締切日は、申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください）。 **（提出方法）** ・Word データは、実習受講前年度に申込みを行い、当該年度１月末までに実習受講条件を達成した方へ、個別にメールにて送信いたします。 ・メール提出の際は、件名「精保実習 A 計画（案）」と本文に学籍番号・氏名を明記してください。 ②『精神保健福祉援助実習Ａ課題ノート』の「事前学習について」の部分をすべて完成（「事前訪問までの準備」の部分は記入できる範囲で記入）させ、スクーリング時に持参し提出する。
課題２	**「精保実習指導Ａ－1」スクーリング受講後の課題** ①実習先に事前訪問を行い、実習指導者より「精保実習 A 計画（案）」の内容について確認を得た後、「精保実習 A 計画書（清書用）」を完成させ、精保実習係（psw@tfu.ac.jp）宛にメール提出する。 ②実習先への事前訪問後、『精神保健福祉援助実習Ａ課題ノート』の「事前訪問までの準備」の部分を完成させる。 ③実習先への依頼状＝個々人で実習生として指導していただくことへの感謝とお願いの気持ちを込めて、実習開始２週間前頃に実習先へ依頼状（封書）を出す。

課題３	**「精保実習指導Ａ－2」スクーリング受講前の課題** 事後学習は、援助実習での自己の振り返りを行い、自己評価とあらたな課題設定に向けて、一定の整理を行うものです。下記に沿い課題にあたってください。 ①実習終了後、速やかに実習先へ御礼状（封書）を出す。 ②「精保実習Ａ事後レポート（科目名：「精保実習指導Ａ」の１単位め）」：4,000 字程度を作成し、所定の提出締切日までに提出してください（提出締切日は、申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』を参照ください）。レポートにまとめる内容は下記 1）～4）のとおり。 1）実習を終えての全体的感想 2）実習前と実習後の精神保健福祉現場についての印象の変化 3）設定した課題の評価や自分のあらたな課題 4）実習を通して知りえた自分自身の評価も含めながら現場実習の成果と評価 実習で学んだことを分析・考察する内容であることが望ましく、単なる感想のみにならないように留意すること。 ※『実習記録』は、実習終了時に実習先に提出し、実習先から「実習出席簿」「実習評価表」と一緒に大学へ返送される。「精保実習Ａ事後レポート」作成のため、実習先に提出する前に自分用の『実習記録』のコピーをとっておくこと。 ※通常のレポート提出台紙で提出する。手書き用・パソコン用どちらでも可。 ③『精神保健福祉援助実習Ａ課題ノート』のすべての課題を完成させる。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【課題１・２アドバイス】

『精神保健福祉援助実習Ａ課題ノート』に示す事前学習課題は、実習生として最低限踏まえておくべき内容です。「事前訪問までの準備」の部分は、各自で文献などにより調べ、施設機関などの依拠する法律、施設機関の組織や機能、社会資源の関連法規などについて学び、事前指導スクーリングまでに整理してください。十分な準備によってまとめられた資料は、必ず実習期間中に役立つものとなります。

それぞれの関心領域に基づき積極的に学ぼうとする姿勢が実習には重要です。「実習計画（案）」の作成は学び方を客観的にまとめる作業ですので、何を学びたいのか、そのためにどう取り組みたいのかという視点で立案してください。その際、実習指導者が決まっている場合、指導者と相談しながら計画を練ることもとても有効です。

実習の受入機関は多忙な業務を割いて指導してくださることを忘れないでください。それに応えられるだけの成果を得るような事前の準備を心がけてください。

【課題３アドバイス】

実習後、事後指導スクーリング前の課題は、実習体験やご自身の専門職としての適性を含めた十分な振り返りを行い、レポートにまとめてください。特に、専門職としての適性については慎重にご自身を見つめ直してください。実習の目標課題の達成度を含め、実習で得た内容を、自分の実習計画に即しながらまとめてください。